写真で出会う、
ちがう社会、
おなじ「若者」。

写真を通して、
インドと日本の若者たちの
まなざしをつなぎ、
他者を知り、自分たちの社会を
見つめ直すワークショップです。

2026
10.29(木)
3限 (13:15–14:45)
8342教室

国際ワークショップ

Youth Through the Lens

Perspectives from Japan and India with Sudharak Olwe

写真でつなぐ、インドと日本のまなざし

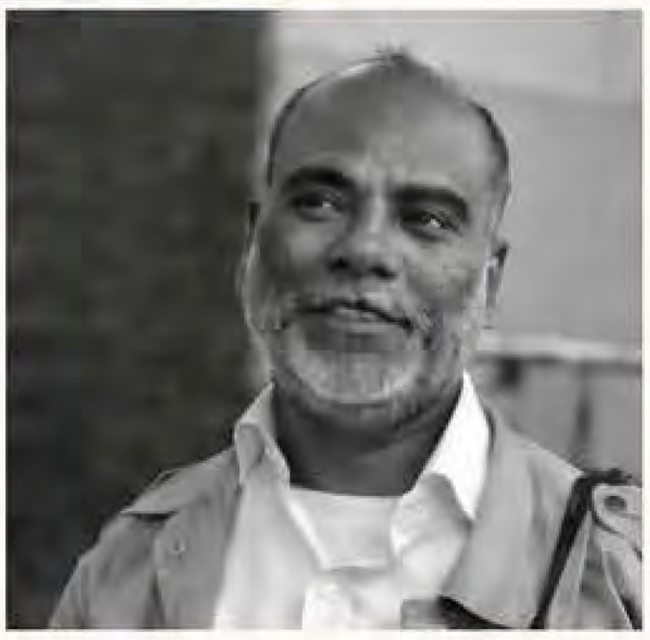
写真家 Sudharak Olwe と考える、若者たちの現在と未来

インドは、世界最大級の若者人口を抱える国である。しかし、「若者」という言葉から見えてくる風景は一つではない。急速な経済成長やグローバル化のなかで新たな可能性を手にする若者がいる一方、農村部や部族地域、ダリト（「不可触民」）・コミュニティなどでは、さまざまな社会的・経済的困難と向き合いながら、自らの未来を切り拓こうとする若者たちがいる。

写真家・フォトジャーナリストのスダラク・オルウェ氏（Sudharak Olwe）は、長年にわたり、ダリトをはじめ社会の周縁に置かれてきた人々に寄り添い、その暮らしや声を写真と映像で記録してきた。近年は農村部や部族地域にも活動を広げ、変化するインド社会を生きる若者たちの希望、不安、葛藤、そして未来への思いを捉えている。

本ワークショップのテーマは「Youth」である。第1部では、参加者自身が撮影した写真をオルウェ氏とともに見ながら、私たちが「若者」をどのように見つめ、表現しているのかを考える。第2部では、オルウェ氏がインド各地で撮影した写真や映像を通して、現代インドの若者たちが置かれた現実と、そこに生まれる希望に触れる。

多様な背景をもつ人々が、尊厳をもって生きる社会とは何か。
私たちは、未来への希望をどのように育むことができるのか。
写真から見える「Youth」の現在と未来を、ともに考える。



スダラク・オルウェ氏
(Sudharak Olwe)

1988年から、西インドの大都市ムンバイを拠点にフォトジャーナリストとして活動している。インドの主要新聞社で報道カメラマンとして活躍してきた。ダリトをはじめ社会の周縁に置かれてきた人々に寄り添い、その暮らしや声を写真と映像で記録してきた。近年は農村部や部族地域にも活動を広げ、変化するインド社会を生きる若者たちの希望、不安、葛藤、そして未来への思いを捉えている。

2026
10.29(木)
3限 (13:15–14:45)
8342教室

対　象	学生・一般（要申込）
使用言語	英語（日本語通訳あり）
参加費	無料

参加申込
下のアドレスまたは
QRコードからお申し込みください
https://forms.gle/PScjdaQV992cQPLJ6

主催　科研基盤B、25K03357「インド「不可触民」の比較民族誌的研究」
（研究代表者：鈴木真弥（大東文化大学））